

平成22年4月1日

## 全国ミニバスケットボール大会審判レポート

佐賀県ミニバスケットボール連盟審判部  
中島秀樹

大会名：第41回全国ミニバスケットボール大会  
期 日：平成22年3月27日(土)～30日(火)  
会 場：国立代々木競技場第一体育館・第二体育館

### 【今大会への意気込み】

今回で5回目の参加となり、いつも最終日の割り当てをもらうことを目標にしてきましたが、今回は予選から割り当てられたゲームをより丁寧にレフェリングをすることを心がけ、選手やベンチ・観客のためにいいゲームにすることを最大の目標にして参加しました。

また前回初めて審判主任をさせていただき、あらためてミーティングの難しさを感じました。昨年7月の全国ミニ審判長講習会でもテーマが「ミーティングの進め方」でしたし、この一年はミーティングについても自分なりに勉強してきました。

### 【3日間の内容】

今大会は、予選の2日間を日本協会から講師として、野口浩正氏・平育雄氏・山田巧氏・清水幹治氏の4名と、3日間通して島田剛次氏が参加されました。

3月28日(日) 男子予選リーグ 代々木第一体育館 Cコート第6試合  
フラビッツ(岡山) 52対47 大間々南ミニバス(群馬)  
主審:中島(佐賀)、副審:山本(香川・女性)、主任:松野(岐阜・A級)

3月29日(月) 女子予選リーグ 代々木第一体育館 Cコート第2試合  
TJジュニアミニバスケットボールクラブ(徳島) 38対27 豊田ミニバスケットボールクラブ(富山)  
主審:中島(佐賀)、副審:鈴木(東京)、主任:小倉(三重・女性A級)

3月30日(火) 男子準決勝 代々木第一体育館 Bコート第3試合  
若葉台ミニバスケットボールクラブ(鳥取) 39対46 袋原スポーツ育成会バスケットボール部(宮城)  
主審:中島(佐賀)、副審:鈴木(北海道)、主任:福田(委員会)

日ごろから、ゲームやプレイの流れを読んで判定することを心がけていますが、さらに個人やチームのファウル数や残り時間の把握、プザービーターやアンスポの予測など、どれだけ神経のアンテナを張り巡らせることができるかということ課題にしました。

予選の2試合の相手が共に全国大会初参加ということで少し緊張していましたので、少し気を使いながら行ないました。

準決勝の相手は、偶然にも3年前に女子決勝の主審をしたときの相手でしたので、プレカンでは2人で協力しているところをアピールしようと話し合いました。

ミーティングでは、ポジショニングに気をつけるようにとアドバイスをいただきました。たとえば、予測はできているのに位置取りが遅い、トレイルの位置が高いなどです。特に男子準決勝とあって試合開始から攻守の切り替えが速く、プレーに走らされている感があり、目でプレーを追っていた時間があっと思ったと思います。大きなジャッジミスなどはなかったのですが、印象として足が動いていないように映ったのかも知れません。さらにきめ細やかな判定をするために気をつけたいです。

### 【総評】

今大会は、佐賀県勢がとてがんばった大会でした。

諸富男子が佐賀県初の全国大会優勝を見事な逆転勝利で成し遂げました。諸富女子も予選敗退でしたがとてもいいゲームをしました。九州のレフリーは最終日に7名残り、同行した初参加の立石君も女子準決勝副審の割り当てをもらい、昨年に続き佐賀から2名が最終日に残ることができました。

また国内の一部でミニのルール変更の噂があったようですが、日本ミニ連盟の規則委員の方は「一切ない」とおっしゃっていました。

今回もたくさんの経験と交流があり、とても充実した4日間でした。今後はよりきめ細やかな判定をすることを課題にまた来年もコートに立てるように一年間がんばっていきたくです。